

33

宋元以前の類書などに見える医経経文の総括

橋本 典子

日本鍼灸研究会

これまで演者は、中国歴代の類書などに見える医経の引用状況について調査してきた。今回はその総括として、宋元以前の類書・叢書中の医経経文のうち、書名が明示されている引用のみを対象に、各篇(難)ごとに引用の状況を報告する。調査対象は、①『大戴礼記』(漢・戴德撰)、②『後漢書』(南朝宋・范曄撰、李賢注)、③『文選』(梁・昭明太子蕭統撰、唐・李善注)、④『五行大義』(隋・蕭吉撰)、⑤『史記正義』(唐・張守節注、開元24年〔736〕成立)扁鵲倉公列伝、⑥『史記会注考証』扁鵲倉公列伝所引『史記正義』、⑦『太平御覧』(北宋・李昉等奉勅撰、雍熙元年〔984〕成立)、⑧『雲笈七籤』(北宋・張君房撰、天禧年間〔1017-1021〕成立)、⑨『類説』(南宋・曾造撰、紹興6年〔1136〕成立)第37巻・内経、⑩『医説』(南宋・張杲、嘉定17年〔1224〕成立)卷之二・鍼灸、⑪『困学紀聞』(南宋・王应麟、咸淳年間〔1265-1274〕成立)である。

引用状況を医経(『素問』『靈枢』『難経』)ごとに整理する(引用内容が同じでも引用書が違えば1条と数える)と、『素問』は計41篇から171条、『靈枢』は計5篇から9条、『難経』は計21難から27条が見られた。その内訳について引用書(上記番号に準拠)と引用条数(細字注を含む)を篇ごとに並べると、『素問』は序(⑨3)、上古天真論第一(⑦⑧各1⑨11)、四気調神大論第二(⑨7)、生氣通天論第三(⑨6)、金匱真言論第四(⑨7)、陰陽応象大論第五(③3④⑤⑥各1⑦3⑧3⑨11)、陰陽別論第七(⑨2)、靈蘭秘典論第八(⑦1⑨3)、六節蔵象論第九(⑨1⑪1)、五蔵生成第十(⑥⑨2)、五蔵別論第十一(⑨2)、異法方宜論第十二(②⑩各1)、移精变気論第十三(⑪1)、脈要精微論第十七(⑦2⑨6)、平人氣象論第十八(⑥1⑨15)、玉機真蔵論第十九(⑥1⑨15)、三部九候論第二十(⑨1)、経脈別論第二十一(⑨1)、蔵気法時論第二十二(④⑤⑥各1)、宣明五気第二十三(④1⑦2⑨7)、八正神明論第二十六(③1⑧3)、離合真邪論第二十七(③⑧各2)、通評虚実論第二十八(③1⑨2)、太陰陽明論第二十九(⑦⑨各1)、評熱病論第三十三(⑨1)、逆調論第三十四(③1)、挙痛論第三十九(⑨1)、腹中論第四十(③1⑨2)、厥論第四十五(⑥⑨各1)、病能論第四十六(⑦⑨各1)、奇病論第四十七(⑦1⑨2)、刺志論第五十三(⑨1)、鍼解第五十四(⑨⑩各3)、皮部論第五十六(⑨1)、気穴論第五十八(③⑨各1)、水熱穴論第六十一(②③⑦各1)、調経論第六十二(⑧⑨各1)、天元紀大論第六十六(⑪3)、五常政大論第七十(⑪1)、至真要大論第七十四(⑨1)、著至教論第七十五(⑦1)、陰陽類論第七十九(③1)の諸篇が、『靈枢』は本輪第二(④1)、五味第五十六(④3⑧1)、五味論第六十三(④1)、九宮八風第七十七(⑧1)、九鍼論第七十八(④2)の諸篇が、また『難経』は序(⑥1)、一難(⑨1)、三難(⑥2⑨1)、六難(⑨1)、九難(⑨1)、十三難(⑥2)、十四難(⑨1)、十五難(⑥⑨各1)、十八難(⑥1)、二十難(⑥1)、二十三難(⑥1)、三十二難(④1)、三十六難(④1)、四十五難(⑥1)、五十三難(⑨1)、五十四難(⑨1)、五十八難(⑨2)、六十難(⑨1)、六十六難(⑥1)、六十七難(⑥2)、七十七難(⑨1)の各難が見られた。

『類説』『太平御覧』の引用条文は原文との一致率が高く、引用箇所が広範囲に及ぶため、校勘の資料として特に重要である。反対に『史記会注考証』では、原文からの抽出や違う篇同士の組み合わせなどが見られるため、取り扱いに注意が必要である。